

# 米づくり情報 (NO. 9)

令和元年8月14日

伊万里・西松浦地区農業技術者連絡会作物部会

## 1 気象概況 (アメダス観測地：伊万里)

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 mm	本年値 mm	平年値 時間	本年値 時間
7月	4	26.6	24.9	30.9	28.6	23.4	22.4	54.2	60.0	28.0	10.4
	5	27.0	25.9	31.5	28.7	23.6	23.7	47.4	115.5	32.0	7.0
	6	27.3	26.9	31.9	30.7	23.7	24.2	44.2	171.5	40.7	27.1
8月	1	27.4	28.5	32.2	33.6	23.7	24.3	28.7	0.0	34.0	45.3
	2	27.4	28.6	32.2	31.4	23.7	26.0	31.2	53.0	32.8	12.5
	3	27.3		32.0		23.8		35.9		30.1	

### 【8月1半旬～2半旬の気象概況】

- 1) 平均気温はやや高く、最高気温は平年並みで、最低気温が平年よりやや高い。
- 2) 降水量は、1半旬は少なかったものの2半旬にまとまった降雨があった。
- 3) 日照時間は、1半旬は多日照であったものの2半旬はやや少なかった。

## 2 生育状況 (8月14日)

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m <sup>2</sup>	主稈 出葉数L	葉色 SPAD	概要
夢しずく 6/1 移植 東山代町脇野	本年値	出穂 8月8日				・平年より約3日遅い出穂
	平年値	出穂期 8月5日				
	平年比	-				
ヒノヒカリ 6/20 移植 松浦町桃川	本年値	79.0	358	13.8	39.8	・草丈は、平年よりやや低い ・茎数は、平年よりかなり少ない (※大雨による深水で分けつが抑制され茎数が少ない) ・主稈出葉数は、平年並み ・葉色は平年より濃い
	平年値	85.9	444	13.6	34.7	
	平年比	92	81	+0.2	+5.1	
たんぼの夢 6/16 移植 松浦町桃川	本年値	75.8	418	12.8	37.9	・草丈は、平年並み ・茎数は、平年よりやや少ない ・主稈出葉数は、平年並み ・葉色は、平年よりやや淡い。
	平年値	74.6	469	13.3	41.2	
	平年比	102	89	-0.5	-3.3	

※夢しずくの耕種概要は稲作情報 No.1、ヒノヒカリ・たんぼの夢の耕種概要は稲作情報 No.3 を参照。

※幼穂長は、ヒノヒカリ 10mm、たんぼの夢 7mm

### 3 今後の管理

#### 1) 山間早植え水稻（5月上旬移植）

- ・乳熟期を迎えている。
- ・カメムシの防除を徹底するとともに、収穫 1 週間前までの間断灌水により実の充実確保に努める。

#### 2) 普通期水稻「夢しずく」

- ・出穂期～穂揃い期を迎えている。
- ・穂孕み期から穂揃い期にかけては、イネの用水要求度が高い時期であるため、水が切れることがないように圃場の水管理を徹底する。
- ・この時期は強風による影響を最も受けやすい時期であるため、台風の接近等が予想された場合には可能な限り深水とし、強風による障害を緩和するよう努める。

#### 3) 普通期水稻「たんぼの夢」、「ヒノヒカリ」等

- ・中干し作業は終了し、間断灌水へ移行する。
- ・穂肥施用の時期となっているが、上位3葉にいもち病の発生がみられる場合は穂肥を控える。
- ・ヒノヒカリ、たんぼの夢の穂肥診断基準はNo.8の3Pの通り。

《参考》出穂期の平年値

品種	平年値
夢しずく	8月5日
ヒノヒカリ	8月26日
たんぼの夢	8月29日

#### 4) 共通

##### ○主な病害虫の防除適期

病害虫名	稲のステージ 出穂前後日数	日数								
		-15	-10	-5	0	+5	+10	+15	+20	
紋枯病	並発生の場合	←→								
	多発生の場合	←→			←→	←→	←→	←→	←→	←→
穂いもち	並発生の場合			←→	←→					
	多発生の場合			←→	←→	←→				
カメムシ類	並発生の場合							←→	←→	
	多発生の場合						←→	←→	←→	←→

図3 紋枯病、穂いもち、カメムシ類の防除適期

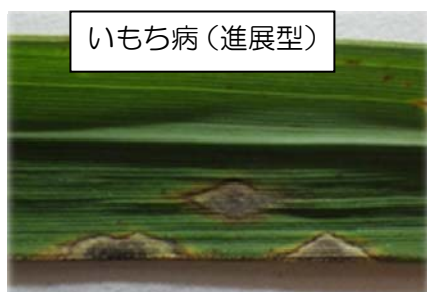
## ①いもち病

### 【山間早植え水稻】

- ・葉いもちの発生が見られる圃場では、穂ばらみ期の防除を徹底するとともに、発生が多いと予想される場合には穂揃期にも防除を行う。

### 【普通期水稻】

- ・8月14日までのBLASTAM情報（気象条件のみによって葉いもちの発生を予測するシステム）によると、伊万里では7月13日以降は葉いもちの感染好適条件が観測されていない。ただし、日当たりが悪い圃場では引き続き圃場の観察を行う。
- ・「いもち病」の進展型病斑が確認された場合は、速やかにオリブライト1キロ粒剤等で適切に防除を実施する。（ただし、オリブライト1キロ粒剤は出穂10日前まで）
- ・窒素過多は発生を助長するので、病斑が見られる圃場では穂肥施用量を減らすなど適切な肥培管理を行なう。



## ②ウンカ類

- ・7月22日に農業技術防除センターより「トビイロウンカ」の発生予察注意報が発表されている。過去10年間のトビイロウンカの飛来状況は以下の通りとなっており、今年の飛来頭数は非常に多い状況となっている。

表1 県内(嬉野市)のライトトラップで6月1日～7月20日(本年は7月19日まで)に捕獲されたトビイロウンカの総数

年次	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
捕獲数(頭)	0	43	10	11	1	49	18	3	45	5800

(※農業技術防除センター 病虫害発生予察注意報第2号 令和2年7月22日より)

- ・トリフルメゾピリムが入っている新規箱施薬剤（フルスロットル箱粒剤、アンコール箱粒剤など）を使用している圃場でも、ウンカの増殖が確認されている。新規箱施薬剤を使用している圃場でも、ウンカの状況を確認し本田防除を実施する。
- ・管内では、増殖率が高い短翅型雌成虫が散見されており、一部圃場では本虫の急激な増加と坪枯れが確認されている。

# トビイロウンカ各世代の発生予測（2020年8月12日作成）



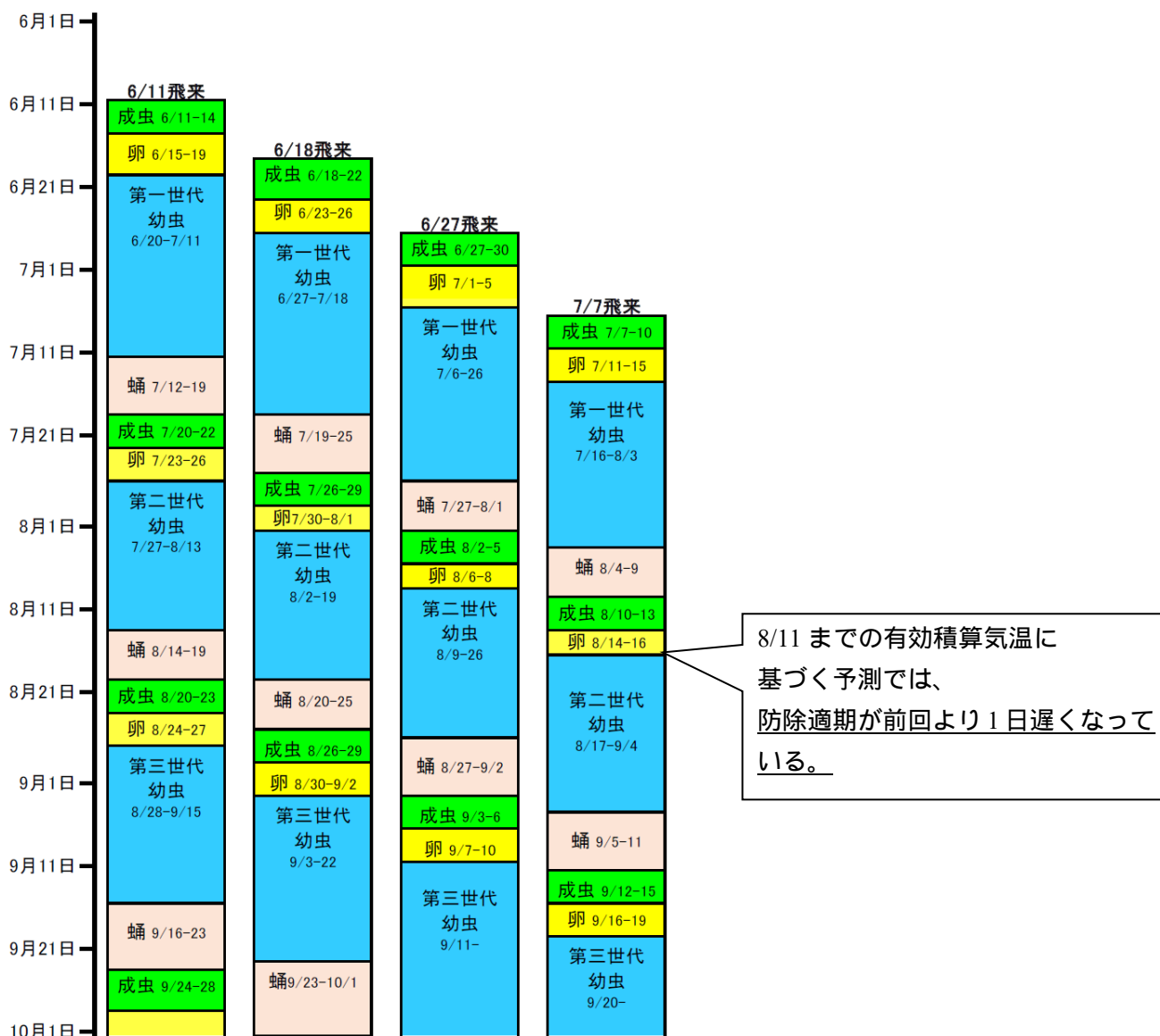
図1 トビイロウンカ各世代の発生予測（第5版、2020年8月12日作成）

1. 6月10～15日（図では6月11日）、6月25～28日（図では6月27日）、7月6～11日頃（図では7月7日）の飛来虫を起点とし、佐賀市川副町の気温データより算出した有効積算温度（第4版では7月21日以降は平年値、第5版では8月12日以降は平年値）を基に作成した。その結果、第5版は第4版に比べ各飛来虫のその後の発生時期は、0～1日早くなった。
2. 本虫に対しては、幼虫ふ化揃い期の防除効果が最も高い。しかし、本年は断続的に飛来がみられたことから、飛来波ごとの幼虫の出現時期は異なる。
3. 田植え時期、品種、地域及びこれまでの防除の違い等によって、本種の発生量は異なる。また、これらの田植え時期等によって、各飛来波に対する防除の重要度も異なるので、各圃場の発生状況を確認し、適期防除を実施する。
4. 今後の飛来状況、気象経過に応じて本図は随時更新する。最新情報は農業技術防除センターのホームページを確認する。

### ③コブノメイガ

・農業技術防除センターのトラップ調査において、断続的な飛来が確認されている。また、圃場の定期調査では、山間早植え水稻、普通期水稻共に食害株率が平年より高い数値となっている（下図 令和2年7月22日 病害虫発生予察注意報第3号より）。

・防除適期は、幼虫ふ化揃い期（発蛾最盛期の7日後）となっているが断続的な飛来により、1回の防除では抑えきれない圃場が多い。防除後も蛾が多数確認される場合は、臨機防除をおこなう。



8/11までの有効積算気温に基づく予測では、防除適期が前回より1日遅くなっている。

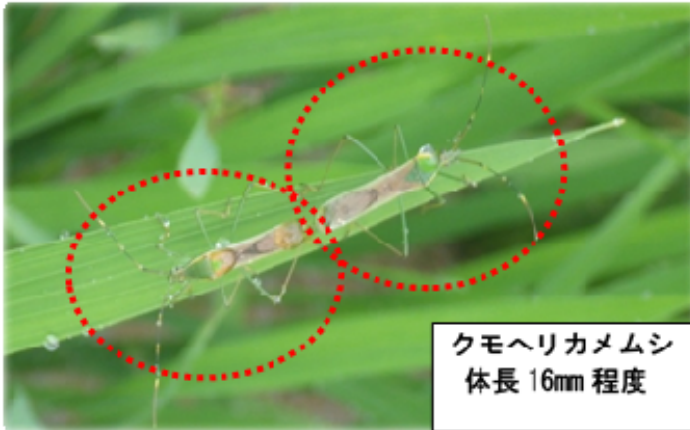
図2 コブノメイガ各世代の発生予測(第5版、2020年8月12日作成)

1. 6月10～15日頃(図では6月11日)、6月18日頃、6月25～28日頃(図では6月27日)、7月6～11日頃(図では7日)に飛来したコブノメイガを起点とし、佐賀市川副町の気温データより算出した有効積算温度(第4版では7月21日以降は平年値、第5版では8月12日以降は平年値)を基に作成した。その結果、第5版は第4版と比べ、各飛来虫のその後の発生時期は、1～2日遅くなった。
2. 本虫に対しては、幼虫ふ化揃い期の防除効果が最も高い。しかし、本年は断続的に飛来がみられたことから、飛来波ごとの幼虫の出現時期は異なる。
3. 田植え時期、品種、地域及びこれまでの防除の違い等によって、本種の発生量は異なる。また、これらの田植え時期等によって、各飛来波に対する防除の重要度も異なるので、各圃場の発生状況を確認し、適期防除を実施する。
4. 今後の飛来状況、気象経過に応じて本図は随時更新する。**最新情報**は農業技術防除センターのホームページを確認する。

#### ④カメムシ類

- 耕種的防除として、出穂 10 日前までには必ず畦畔の草刈りを終える。出穂後に行うとカメムシ類が圃場に侵入し、被害を助長する。
- 薬剤防除としては、乳熟期（出揃い期の約 10 日後）の防除を徹底して、斑点米の被害防止を図る。発生が多い圃場では穂揃い期（出穂期の約 5 日頃）と乳熟期の 2 回防除を実施する。

★多発生の目安 ⇒ 20 回のすくいとり調査でカメムシが 5 頭以上の場合



#### ⑤紋枯病

- 昨年度形成された菌核が伝染源となるため、昨年度発生した圃場では薬剤防除を徹底する。

#### ⑥稲こうじ病

- 本病は土壌伝染病であるため、昨年発生が確認された圃場では適切に防除を実施する。
- 薬剤防除として水和剤や粉剤を使用する場合は出穂の 20～10 日前に、粒剤の場合は出穂 30～20 日前を中心に防除を実施する。また、肥料が遅効きしないよう適切な肥培管理を行う。

# 令和2年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：伊万里）

西松浦農業改良普及センター

